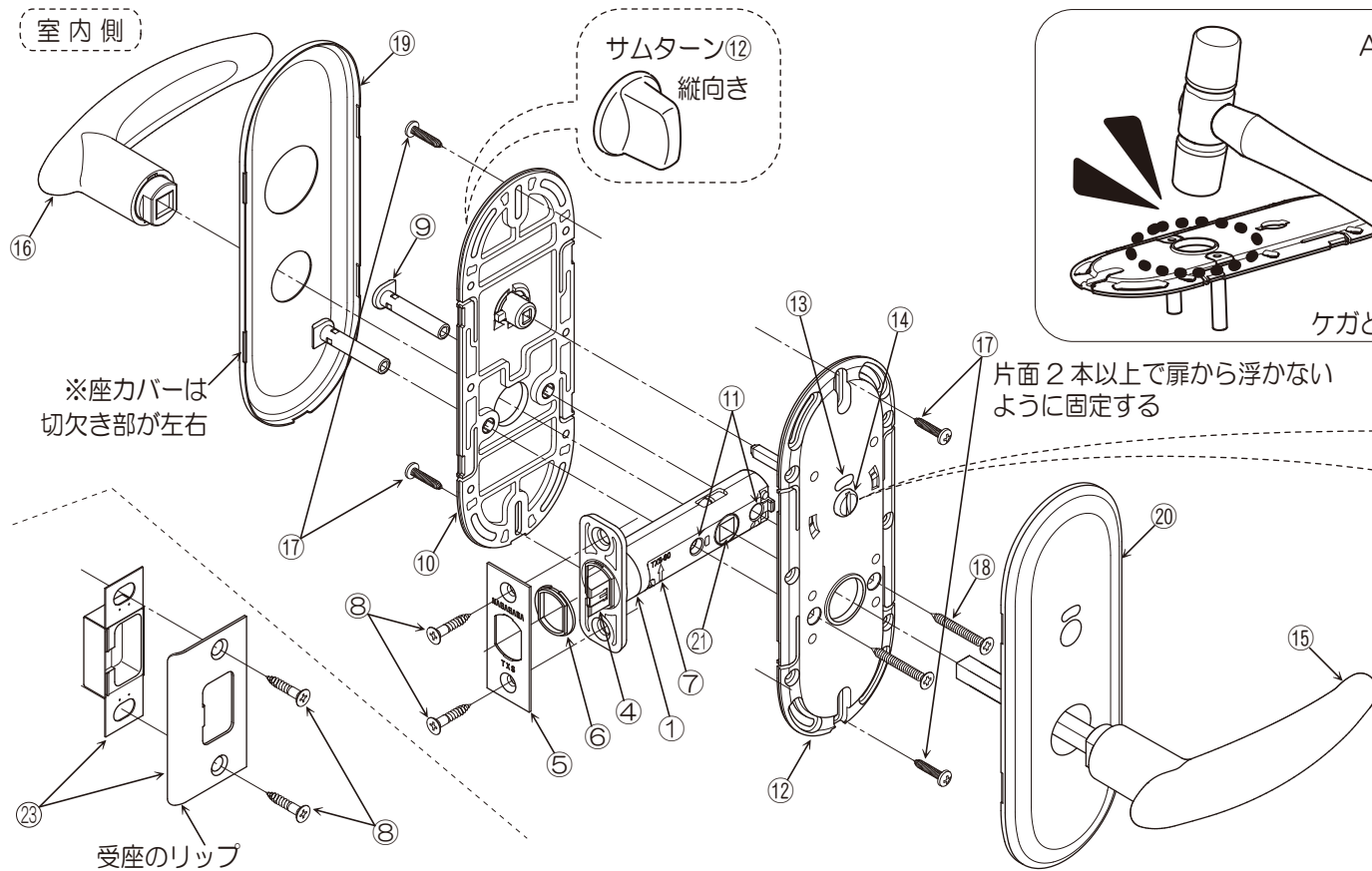


### 取付上の注意

※ 締め付けの際は、必ず手動ドライバーをご使用ください。電動ドライバーは使用しないでください。  
ねじ穴の破損および錠・座本体などを傷めるおそれがあります。  
※ 取付ねじ等は、しっかりと固定し飛び出しのないように取り付けてください。



- A: 吊元の確認と錠の取り付け**
- 錠①の筒が入る扉の穴径がφ24 mmの時は、φ24 リング②③を錠に取り付けます（裏面の説明参照）。
  - 「左吊元」の場合は、錠①のラッチボルト④を廻してあわせてください。
  - フロント板⑤にラッチプッシュ⑥をセットします。  
※ 25 mm幅フロント板を使用する時は、22.5 mm幅フロント板からラッチプッシュ⑥を外して取り付けます。
  - 錠①を矢印⑦を上向きにして、扉加工部に差し込みます。
  - 錠①とフロント板⑤をあわせて、固定ねじ⑧2本で取り付けます。

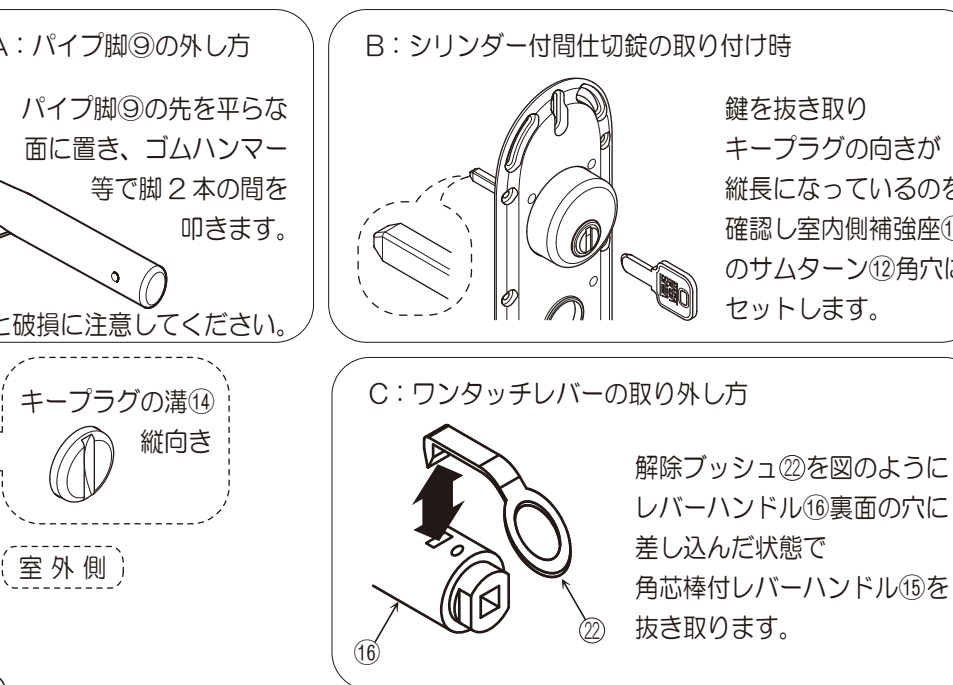
【パイプ脚⑨なし】本製品は、補強座⑩にパイプ脚⑨なしでも取り付けられます。既存金物からのお取り替え等で、既に切欠穴が開いており、切欠穴の幅が40 mm以下の場合ではパイプ脚⑨は不要です。パイプ脚⑨を誤って取り付けた場合は、右上『A: パイプ脚⑨の外し方』を参考に、脚の先を机などの平らな面に置き、ゴムハンマー等でパイプ脚 2 本の間を叩くと外せます（ケガと破損に注意してください）。

【パイプ脚⑨あり】新規取付で本図通りの切欠穴を開ける場合は、パイプ脚⑨を取り付けます。部材の芯出しが容易になります。

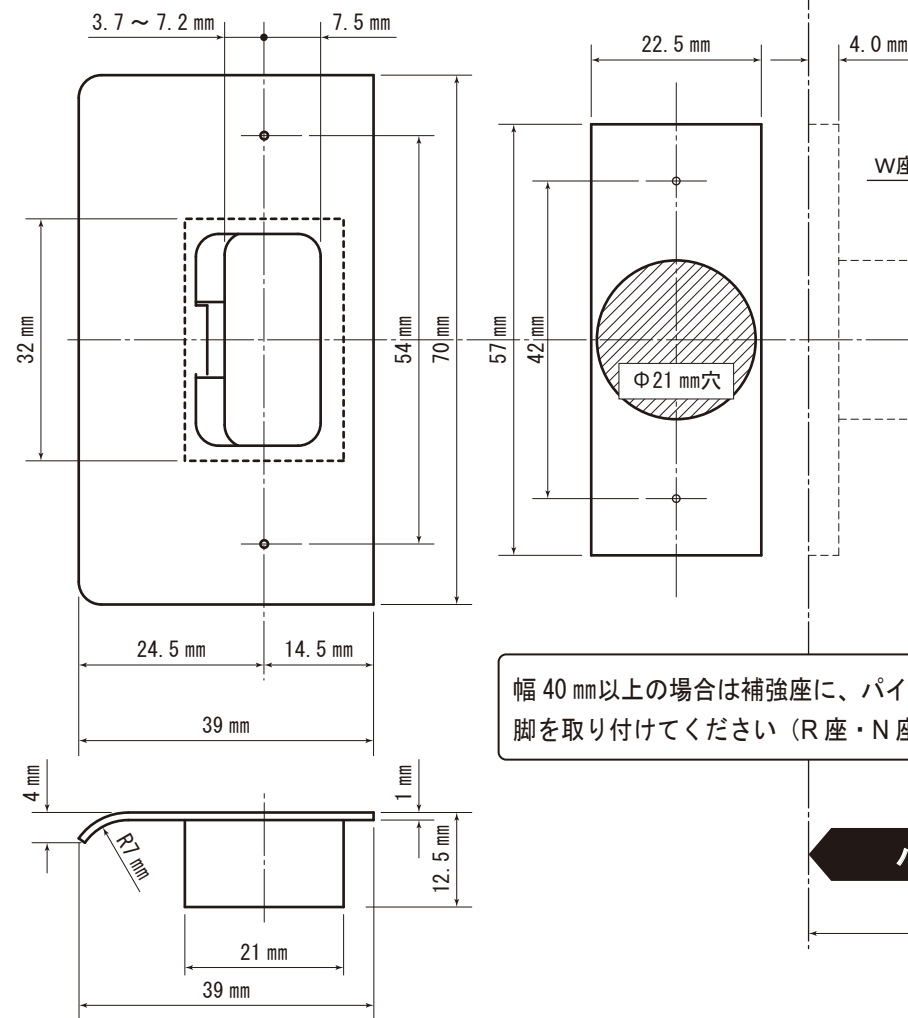
- B: 座の取り付け**
- 【パイプ脚⑨なし】1. 室内側補強座⑩を室内側にセットします（サムターンつまみ⑫は縦向き）。
- 【パイプ脚⑨あり】1. パイプ脚⑨を室内側補強座⑩の脚部にセットし、錠ガイド穴⑪に差し込みます（サムターンつまみ⑫は縦向き）。
2. 室外側補強座⑬をセットします（表示錠の時、表示⑬は青、キープラグ溝⑭は縦向き。シリンダー付間仕切錠の時は右上『B: シリンダー付間仕切錠の取り付け時』を参考にセットしてください）。
- ※ 角芯棒付レバーハンドル⑮と反対側レバーハンドル⑯を反セットし、錠が正常に作動することを確認してください。
3. 補強座の固定位置を確認し、補強座を、固定ねじ⑰4～8本と、引張ねじ⑱2本（パイプ脚⑨を使用しない場合は不要）で取り付けます。
- ※ 補強座固定ねじ⑰の取り付け位置は、扉の切欠穴に合わせて選べます。扉から浮かないように取り付けてください。
4. 仮固定のレバーを外し、座カバー⑲⑳を嵌め込みます。『切欠き部が左右』に注意してください。

- C: ワンタッチレバーの取り付け**
1. 角芯棒付レバーハンドル⑮を錠角穴部⑳に差し込みます。反対側レバーハンドル⑯をセットしてください。
- ※ ハンドルセットは、軽く差し込むだけで固定されます。強く押さえ過ぎると動きに支障がでることがあります。その時は右上『C: ワンタッチレバーの取り外し方』を参考にゆるめ、適正な位置にあわせてご使用ください。

- D: 受座の取り付け**
1. 受座㉓は固定ねじ⑧2本で取り付けます。受座のリップの飛び出しに注意しながら取り付けます。



イラストは【R 座 表示錠】右吊元仕様



幅 40 mm 以上の場合には補強座に、パイプ脚を取り付けてください（R 座・N 座時）

